

高速道路資産の長期保全及び更新のあり方に関する技術検討委員会
第6回 議事要旨

日時：令和4年3月3日（木）15:00～17:00

場所：A P日本橋 会議室A・B

出席：

委員長 藤野 陽三 （城西大学 学長）
委員 太田 秀樹 （中央大学 研究開発機構 機構教授）
宮川 豊章 （京都大学 学際融合教育研究推進センター インフラシステムマネジメント研究拠点ユニット 特任教授）
西村 和夫 （東京都立大学 理事・学長特任補佐）
秋葉 正一 （日本大学 生産工学部 教授）
高橋 知道 （東日本高速道路（株）管理事業本部長）
源島 良一 （中日本高速道路（株）保全企画本部長）
小笹 浩司 （西日本高速道路（株）保全サービス事業本部長）

オブザーバー 山田 哲也 （（独）日本高速道路保有・債務返済機構 企画部長）

議事：

1. 委員会での審議事項及びスケジュール
2. 更新事業の実施状況
3. 第5回委員会（R2.1.28）のフォローアップ
4. 定期点検や更新事業の実施等により得られた新たな知見

主な意見：

1. 更新事業の事業進捗が図られ、工事契約が2年前と比べて大きく増えていた。新規路線の建設や四車線化といった他の事業が多数ある状況においても、更新事業が着実に進捗しているといえる。
2. 更新事業は新規に建設をするよりも危険を伴い時間もかかること、その中で現場作業の安全確保やCO2削減といった社会的ニーズに応えながら事業を進めていることを確認した。
3. 暫定2車線区間の4車線化と絡めたトンネルインバート施工は非常に合理的という印象を受けた。渋滞抑制対策等の社会的影響を考慮した現場での取組みで得られた知見が体系化されていくと理解した。
4. 平成26年の提言以降に行われた調査等の結果から、中空床版橋等、PC鋼材、舗装路盤、地すべり対策をしても変状が収まらない切土、火山堆積物地質における盛土において、新たな課題が存在することが確認された。
5. 本日の委員会で審議を頂いた新たな知見について、今後も知見の深掘り、対策対象範囲の必要要件の設定や最適な施工計画の検討等を行うべきである。